

平成18年4月7日

会員の皆様へ

第5回相談会とデモのお知らせ

「脳卒中から助かる会」

代表 上野 正

桜吹雪とともに春本番を迎えましたが、皆様如何お過ごしでしょうか？
会が発足して1年が経ちました。この間私達が取り組んできた署名運動の結果
集まった16313名の署名を市長に提出しました。皆様の熱意が通じ、ようやく
急性期医療が残ることになりましたが、その後センターの医師不足はいよいよ
深刻さを増しています。市民が頼りにし、いつでも最新の治療を受けられたセ
ンターが今や危機的状況になっているのです。

そこで、次の通り**第5回相談会とデモ**を行いますのでふるってご参加下さい。

第5回相談会とデモ

日時：4月18日（木）午後1時より

場所：開港記念会館（県庁筋向かい） 2階9号室

デモ：3時半出発 開港記念会館より市庁舎まで

センター長が代わりました。1年前着任した消化器外科が専門の福島センター
長が退任し、この2月から植村研一脳外科医（72才）がセンター長に。

植田先生が辞められました。残念です！

植村センター長は強権的なやり方で植田先生が長を務めておいでだった脳卒
中診療部を潰し、先生を外科部長の下に配属させました。センターの急性期治
療が残ることになって、一時は留まるおつもりだったようですが、とうとうお
辞めになってしまいました。これで畑、松岡先生と合わせてセンターの名医3
人が居なくなってしまうました。

そればかりではなく、植田先生以外にも神経内科のお医者さんがこの3月で
2名お辞めになり補充が出来ない状況です。昨年3月末の13人が現在は6人、
そのうち1人は長期休診。残り5人のうち1人は患者放置問題を引き起こした
山口滋紀医師です。もう**危機的**という他ありません。

また唯一人の内科医が辞めとうとう0に。麻酔医も0。放射線科医も0。
脳卒中と関係の深い循環器専門の医師が1年以上も0。

今、脳卒中を起こしたら大変だ！ 入院患者さんはどうなるのだろうか？
この医師不足の窮状にもかかわらず、松岡先生を現場に戻さない事は考えられない。一刻も早く先生をセンターに戻して欲しい。

松岡先生の第2回人事委員会が2月27日に開かれました

栗田先生への市側の反対尋問と畑先生の証言がありました。(内容は別紙)
市側が松岡先生の配置転換の理由としている「人間関係の悪さ」の根拠は、間違いを指摘されたり、叱られた事を恨んだ人達によって書かれた書類や証言だけ

で、まるで子供の喧嘩のようです。 本当の理由は誰が考えても「医療事故の指摘」しかありません。

次回の人事委員会は…

日時：4月27日(木)

午後1時半より

(受付は1時まで)

場所：朝日会館 6階

(日本大通)

人事委員会会議室

(045-671-3346)

★★人事委員会★★の成り行きを市民が注目していることが最も大切です。

出来るだけ多くの方に傍聴して頂きたいと思います。

医療事故がようやく明るみに…

・ 亀田さんの事故について、ついに病院経営局とセンターに神奈川県警の家宅捜索が入りました。前代未聞とのことです。(資料)

・ もう一人の被害者、血管内手術により死亡した米国人男性の妻テレサ・カミングスさんが1月末に来日し、福島センター長に面会し説明を求めましたが、納得のいくものではなく、手続きをした結果横浜地裁による証拠保全の措置が行われました。(資料)

内部告発者保護の法律が4月1日から施行されました。読売新聞全国版の記事に松岡先生の事例が紹介されています。(資料)

病院経営局の責任です！

1. 事故隠し

亀田さんの件は外部調査委員会が「医療過誤としか考えられない」と結論を出したにもかかわらず、岩崎栄病院経営局長は「ミスはあったが事故では無い」など訳の分からないことを強弁している。

2. センター長の任命

昨年一月に任命した消化器外科専門の福島恒男センター長は、厚生労働省の脳卒中治療研究班の全国5箇所の指導的中核施設の一つである脳血管医療センターを代表していた畑、松岡両先生を失った。

今年2月に任命した植村研一センター長は、横浜市で唯一人の血管内治療学会認定の指導医である植田先生を出してしまった。

ともに失った後任を集めることが出来ず、センターを危機に陥れている。

どうしてこのようなセンター長ばかりを次々に任命するのか？

「助かる会」の代表が一人になったわけ

代表の吉田孝さんが、3月初め重病のため緊急入院され、退院後も安静治療をよぎなくされています。「代表の仕事が続けることは出来ず、名前だけというのも遠慮したい」とのご連絡をいただきましたため、今回のお知らせは一人の名前でお送りすることになった次第です。